

活用事例	② ③ 昼休みに地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】地震・地震火災・津波への対応訓練、小中共有の危険箇所マップの作成		
学校名	下関市立木屋川中学校		
日時	平成25年7月3日(水) 5時間目		
場所	運動場及び木屋川近隣公園	参加者	生徒・教職員及び消防署職員

1 訓練のねらい

- (1) 昼休みに地震が発生した場合に、どこにいても、地震の揺れから身を守る場所を瞬時に見つけ、その後、指示した場所に落ち着いて避難できるかどうかを検証する。
- (2) 地震が発生し、直後に津波警報が発令された場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるかどうか、また、避難経路の安全を確認しながら、二次避難場所まで整然と避難ができるかどうかを検証する。

2 訓練の概要

(1) 地震の発生

「訓練放送、ただ今、緊急地震速報を受信しました。数秒後に強い地震が発生します。教室にいる生徒は机の下に隠れてください。廊下・屋外にいる生徒は近くの安全な場所で待機してください。」(教頭)



- (2) 火災の発生
 - ・ 非常ベル (校務技師)

(3) 生徒の安全確保・現場の確認

「今、現場を確認中です。次の放送まで待機してください。」(教頭)

- ・ 生徒の安全確保 (担任)
- ・ 本部設置 (校長・教頭)
- ・ 現場の確認・状況報告 (副担任)

(4) 一次避難場所 (運動場南側) へ避難

「訓練火災、訓練火災、理科室から出火しました。全員運動場へ避難してください。」(教頭)

- ・ 次の内容を119番通報する。(事務主任)

- (ア) 「訓練火災」です。
 (イ) 場所は、下関市立木屋川中学校です。住所は、下関市木屋川南町2-660です。
 (ウ) 3階建ての建物で、出火場所は3階です。
 (エ) 生徒数は、101人、職員数は15人です。
 (オ) 運動場へ避難予定です。
 (カ) 初期消火は、生徒を非難させてから行います。
 (キ) 電話番号は、083-282-0354です。
 (ク) 通報者は、〇〇〇〇です。

- ・ 避難誘導 (担任)



- ・ 室内の生徒は、次のように行動する。
- (7) 電気を消し、窓を閉める。
- (イ) 教室の出入口を閉める。
- (ウ) 上履きのまま、何も持たずに無言で避難する。校舎内は早足、外は駆け足で。

(5) 一次避難場所（運動場南側）へ集合

- ・ 火元から最も遠い避難場所で、火元に背を向けて整列する。総務委員は先頭に並ぶ。
- ・ 総務委員が担任へ次のように報告する。

「〇人、全員います。」
「〇〇くんが欠席、あとの〇人は全員います。」

- ・ 教員は下記の順に報告する。
学級担任 → 学年主任 → 教頭
- ・ 教頭は校長へ報告する。

「生徒・教職員・来校者、全員無事避難しました。」

「女子生徒〇人と男性教員〇人が確認できません。〇〇室に残っているように思われます。救助に向かいます。」

- ・ 津波情報をつかむために、一次避難場所へ自家用車を移動させる。（教務）

(6) 二次避難場所（木屋川近隣公園）へ避難

「津波が発生しました。全員二次避難場所、木屋川近隣公園へ避難してください。」（教頭）

- ・ 移動は、教職員が誘導する。

※ 学校から二次避難場所（木屋川近隣公園）までは片道1.5km

(7) 二次避難場所（木屋川近隣公園）へ集合

※ 報告は、一次避難場所と同様

(8) 講評及び指導

- ・ 講評（校長）
- ・ 指導（消防署職員）

(9) 学校へ移動

〈当日は雨のため、一次避難場所を体育館に変更し、(6)～(9)の代わりに、危険箇所マップづくり(6)' (7)'を行った。〉

小中連携の一つとして、小学校児童と見守り隊が作成した危険箇所マップを中学生が検討・追加して、小中が危険箇所マップを共有した。

(6)' 小中共有危険箇所マップの作成

- ・ 自治会ごとに3～7人の班に分かれる。
- ・ 王喜小学校、吉田小学校の危険箇所マップをもとに、木屋川中学校の危険箇所マップを見直し、小中で共有した。



(7)' 講評および指導

- ・ 講評（校長）

3 訓練の成果と課題

昨年度までは、教室に担任と生徒全員がいる状態から避難訓練を始めていた。今年度は、昼休みに生徒が室内・室外等、様々な場所に生徒だけである状態から避難訓練を始めた。生徒は、予想していた以上に落ち着いて行動し、放送の指示に従っていた。雨天のため、二次避難場所（木屋川近隣公園）のことが口頭説明になってしまったので、直接行く機会を設けたい。